

(国土交通省) 全体ヒアリング概要

日時：平成21年9月7日(月)

場所：合同庁舎4号館4階第2特別会議室

聴取者：有識者議員 相澤議員、奥村議員、青木議員

内閣府 藤田政策統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大江田審議官、
須藤参事官、更田企画官

説明者：国土交通省 藤田 大臣官房技術総括審議官

【奥村議員】

国土交通省の担当する分野は広い。全体の事業費がいくらで研究開発費がいくらか教えて欲しい。

【国土交通省】

国土交通省の予算全体は概ね6兆円。6兆円を「国土交通省重点施策2009」の事業に重点化しようとしているもの。重点施策の事業でいくらかという計算はしていない。

【奥村議員】

資源配分方針の重要課題の多くが国土交通省の施策と関係している。低炭素も重要だが、活力ある経済社会も柱である。環境と経済の両方をどのように進めるのか。

【国土交通省】

両者対立するとは思っていない。低炭素を実現しながら活力ある社会構築も出来ると思っている。

【奥村議員】

マクロで見て、国土交通省の予算で二酸化炭素の排出削減がどの程度可能なのか、また、どの程度の経済成長に寄与できるのか目標の数字はあるのか

【国土交通省】

そのような数字は持ち合わせていないが、リーマンショックの時に計画を作ったので活力ある社会が一番目にきている。どれだけの成長が出来るかまでは試算していないが、我々として出来ることを並べて貢献していこうというもの。公共工事が民需の落ち込みを和らげているという実感はあった。環境に関する目標は、京都議定書の目標である。

【奥村議員】

長期優良住宅は税制上のメリットや補助金がないと普及しない。定着させるにはそ

れなりのボリュームがないと効果が出ない。いかに普及させようとしているのかの方法と併せて目標数値があるとわかりやすい。

【国土交通省】

税制等については、来年度は民間の賃貸住宅にも税制特例を創設しようと要求している。全体のボリューム感の数值は持ち合わせていない。

【相澤議員】

科学技術関係の予算要求を増額しているとの説明だが、依然として公共事業的なものを科技予算にいて、公共事業の厳しい部分を補っているように見えるのが気になる。国土交通省で開発した技術が事業を加速化している等の姿が見えない。

【国土交通省】

国土交通省は社会資本整備が任務であり、本体が縮減で厳しい状況にあることにご理解頂きたい。ただ、運輸関係では低炭素に役立つよう技術開発に努めており、社会資本整備もコスト削減に努めていきたい。

例えば、シックハウスの問題では、国土交通省自らが技術開発するというよりも、原因を解明して技術基準を示し、それを満たすよう民間に技術開発に取り組んでもらうということもしている。

【相澤議員】

土木、建築、運輸関係の三つの研究所、今の技術開発に国土交通省所管法人から出た技術が展開につながっているものはあるのか。

【国土交通省】

独法がやっていることとしては、例えば、低公害車などある。また、海洋分野の国際標準化を進めるなど、今後の展開が有利になるよう基準のところで日本発のルール作りに取り組んでいる。これもアイデアは独法から出たものである。

【相澤議員】

独法の研究所はその方向にシフトしているとの理解でよいか

【国土交通省】

交通のインフラ以外は基準を制定してこそ普及が進む。安全や環境の基準作りに国際社会の中で努力している。

【相澤議員】

低炭素など最重要政策課題について、他省と連携すべきものが多いが、どう進めて

いるのか。

【国土交通省】

低炭素は環境省との連携なしには出来ない。研究段階から前広に連携している。住宅も経産省と連携して新しい材料の開発を進めている。

【相澤議員】

基準、規制が大きな分野となっており、それを作るのが研究所の役割であって、産総研等とは役割が違うという理解でよいか

【国土交通省】

然り。また、独法への予算、交付金について高いハードルをもうけているのでそのような方向に誘導されているという面もある。

以上